

パブリックコメント

第3期 大東市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）

(1) 基本的な考え方

国においては、令和4（2022）年に「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を改訂し、「デジタル田園都市国家構想総合戦略」を策定した。令和7（2025）年には、「地方創生2.0基本構想」を策定し、「人口減少を受け止めた上で、人口規模が縮小しても経済成長し、社会を機能させる適応策を講じていく」ことを謳うとともに、そのために「地域の経済・社会、これらを支える人材の力を最大限に引き出す政策の強化」などが掲げられた。

本市の総合戦略においても、この考え方即すとともに、総合計画に示すまちづくりの展開方針（政策の方向性）に基づき、豊かな生活を安心して営める地域社会の形成（まち）と、地域社会を担う多様な人材の育成・確保（ひと）、地域における魅力ある多様な就業・産業の維持・発展（しごと）を進めていく。

(2) 計画期間

令和8（2026）年度～令和12（2030）年度までの5年間

	令和6 (2024) 年度	令和7 (2025) 年度	令和8 (2026) 年度	令和9 (2027) 年度	令和10 (2028) 年度	令和11 (2029) 年度	令和12 (2030) 年度
大東市総合計画	第5次大東市総合計画 (前期)			令和3（2021）年度～令和12（2030）年度 (後期計画)：5年間			
大東市総合戦略		第2期		第3期大東市総合戦略：5年間			
国 デジタル田園都市 国家構想総合戦略			令和5（2023）年度～令和9（2027）年度				
大阪府総合戦略			令和7（2025）年度～令和11（2029）年度				

(3) 総合戦略における施策の方向性

総合戦略は、本総合計画のまちづくりの考え方を踏まえた上で、計画期間中（5年間）に重点的に取り組む施策を示すものとする。

重点化する施策は、「大東ならではの人や資源、組織、仕組み等を活用する」ことを前提とした、市民の日々の「暮らしの質を向上させる施策」、産業や文化など「まちの活力を維持・発展させる施策」、各施策を継続させるための「財政力等を向上させる施策」とし、それら施策を市内外に知らしめ、認知度を向上させることによって、大東の魅力を確立させ、さらに市民の満足度を高めていく。

なお、総合戦略に掲げる施策は、総合計画のまちづくりの展開方針である「1. 安全・安心の土台の構築」「2. 大東ならではの付加価値の創出」「3. 財政基盤の強化」に寄与するものであり、施策の推進によって、「安全・安心の土台の上に希望・喜びが実感できるまち」という将来像の実現をめざしていく。

そして、「安全・安心」や「希望・喜び」が実感できるまち、すなわち一人ひとりの幸せを感じられるまちとなることで、大東に住み続けたいという定住意欲の向上へつなげていく。



大東ならではの人や資源、組織、仕組み等とは…？

大東が培ったソフト的な素地や、既に有する資源や制度などを活用した施策のこと

大東には、都市化が進んだ現在においても、地域コミュニティや住民間で互いに支え合う共助の仕組みが備わっており、安全・安心の暮らしを支えている。また、地域人材や関係団体との連携や参画によって多様なまちづくりを推進するとともに、切れ目のない子ども支援や創業・操業支援など、総合的な相談・支援体制の構築に先進的に取り組んできた。さらには、人口急増期に建設が進んだ公共施設や建物等の更新時期に差し掛かっており、ハード的にも人口減少時代に即したまちづくりに取り組むことができるチャンスの時期を迎えている。

また、都市部へのアクセスの良さや豊かな資源、コンパクトな市域など、地勢的な優位性を有している。

これらを活用したり、掛け合わせたりすることで、新たなものを一から構築するよりも効率的・効果的にまちづくりを推進することができる。

暮らしの質の向上に資する施策：

災害対策や子育て支援、教育の充実、交通手段の確保など、今住んでいる市民が「住み続けたい」と感じる住環境を整える施策

まちの活力の維持・発展に資する施策：

地域活動の中心を担う自治会の支援や地域産業の支援、新たな企業の参入、観光と産業の掛け合わせなど、様々な人や企業が集まり連携し合うことで、まちの賑わいを創出できる環境を整える施策

財政力の向上と資源の最適化に資する施策：

人口減少・少子高齢化が進展する中でも、歳入増加・歳出削減、デジタル化・DX*などによって、効率的で安定した行政サービスを提供し続けられる財政基盤を整える施策

大東への理解・共感と知名度の向上につながる効果的なプロモーション*：

施策を実施する際は、常に市内外に向けた「発信」とセットで行うことを中心とし、大東への理解・共感と知名度を高めていくことで、シビックプライド*を醸成する施策

(4) 重点分野

大東が有する強みや弱みなどを踏まえつつ、大東ならではの資源を活用しながら、次の分野で取り組んでいく。

8つの重点分野

- ①危機管理の徹底
- ②エリアの価値を高める都市整備と都市空間の創出
- ③健康寿命の延伸
- ④確かな学力の向上と教育環境の充実
- ⑤出産や子育ての安心と魅力の創出
- ⑥チャレンジする人と産業の後押し
- ⑦シビックプライド*の醸成と市外からの人の呼び込み
- ⑧行政サービス改革

(5) 重点各分野の取組

1 危機管理の徹底

大東の特徴と課題

<強み>

自治会や自主防災組織など、地域主体の活動の基盤が築かれている
増補幹線や地下貯留などの整備により、浸水被害が軽減されてきている

<課題>

地震や土砂災害などの地勢的リスクを抱えている
街頭犯罪発生件数が増加傾向にある
施設等の老朽化が進んでいる
自治会等の地域主体の活動の担い手不足や高齢化が進んでいる

めざす「定住したいまち」の姿

- 日常から地域内で共助の体制が築かれており、防災・防犯力が高いまち
- 施設等の安全性が確保されているまち
- 市民が防災・防犯の取組や市の安全性について知っているまち

KGI*	共助力の向上	近所の人と助け合える関係性が築けていると答える市民の割合の増加
	まちの治安の向上	街頭犯罪7手口*発生件数の減少
	安心して暮らせていると感じる市民の増加	「安全・安心なまちだ」と思う市民の割合の増加

(1) 地域防災力・防犯力の向上

多様な主体と連携した危機管理体制の構築

自主防災組織の機能強化

自治会運営支援の強化

地域の安全醸成に資する助け合い制度の加入促進

(2) 公共施設の老朽化対策

新庁舎整備の早期着手・推進

将来の公共施設のあり方と連動した計画的な老朽化対策

(3) 住宅の老朽化対策

住宅の耐震化

空家の適正管理の推進

(4) 安全なまちであることを市民が知り、安心できる情報発信

大東の安全対策や防災体制など、まちの安全性の発信と周知

2 エリアの価値を高める都市整備と都市空間の創出

大東の特徴と課題

<強み>

都市部へのアクセスが良い・市域がコンパクトで市内移動しやすい
空家のうち流通可能な住宅が多い
公共空間を活用した市民主体の取組が行われている
大阪市内に隣接しているが、大阪市と比較して安価で住宅を購入できる

<課題>

一部、交通不便地や生活関連経路のバリアフリー化への未対応など、快適な移動が難しい地域が残っている
河川の浮遊ごみや臭い、まちなかのポイ捨てごみがまちの景観を阻害している
賃貸用住宅が多く、分譲住宅が少ない
未利用普通財産の活用の方向性の決定に時間がかかっている

めざす「定住したいまち」の姿

- 住み心地の良さを実感できる都市環境が整ったまち
- 身近に賑わいや憩いの空間があるまち
- 市民の環境意識が高いまち

KGI	駅周辺の賑わいの創出	駅前の滞留人口の増加
	大東での暮らしが住みよいと感じている市民の増加	住みよいまちだと感じている市民の割合の増加
	空家の抑制	空家率の上昇の抑制 (伸び幅の鈍化)
	環境に配慮した生活を意識する市民の増加	ふだんから環境にやさしいエコな生活を心がけていると答える市民の割合の増加

(Ⅰ) 活力と持続性を高める都市空間の創出

駅周辺等の賑わい創出

未利用普通財産*の早期方向性の決定

公共施設等の再編に合わせたエリア価値の創出

(2) 快適な移動環境と住環境の整備

地域の実情に応じた移動手段の整備

生活関連経路*（市道）のバリアフリーの計画的実施

空家の利活用による流通促進

市民・事業者の温室効果ガスの削減

きれいで豊かな河川美化の推進

(3) 住み心地の良さを市民が実感できる情報発信

大東の利便性や暮らしやすさなど、まちの魅力の発信と周知

3 健康寿命の延伸

大東の特徴と課題

<強み>

高齢化率が低いまちである

大東元気でまっせ体操の拠点が市域全体に拡がっている

市民間で「支え、支えられる」地域の支え合い体制づくりが推進されている

<課題>

後期高齢者数が増加し続けることが予測されている

介護度の重症化が進んでいる

全国的に介護人材不足が予測されている

全国的に若い世代の健康意識が低い

めざす「定住したいまち」の姿

- 年齢を重ねても活躍できる場所があり、心身ともに健康に過ごせるまち
- 健康維持に向けた取組が充実したまち
- すべての世代で市民の健康意識が高いまち

KGI	健康に暮らせる期間の延伸	新規介護認定者の平均年齢の延伸
	市民の健康意識の向上	自分が健康だと思う割合の増加

(1) 全世代の健康づくり

継続した運動習慣の啓発

けん診受診に対する啓発強化

(2) 高齢者の介護予防と生きがいの創出

介護予防に向けた多様な健康づくりコンテンツの展開

高齢者の居場所づくりや生きがいづくりなどの社会参加の促進

高齢者の生活を支えるボランティアや人材の確保

(3) 市民の健康意識を高める情報発信

市の健康に対する取組や健康づくりの重要性についての発信と周知

4 確かな学力の向上と教育環境の充実

大東の特徴と課題

<強み>

平成21年より「教員の確かな関わりによる学び合う授業づくり」を実践している地域とともにある学校として地域人材の活用を推進している家庭教育への支援に早くから着手している

<課題>

子どもの学力は無解答率等緩やかに改善しているが全国比としては道半ばとも言える
子どもの体力はコロナ禍以降、全国同様伸び悩んでいる

不登校児童・生徒は全国的に増加傾向にある中、高止まりの状況であり、引き続き「学
びへのアクセス100%」の追求が必要である

学校施設の老朽化が進んでいる

めざす「定住したい」まちの姿

- 子どもたちが楽しく学校に通うことのできるまち
- 生涯にわたって学び続ける力が身につき、心身ともに健やかに育つまち
- 子どもたちが将来の夢や希望を持てるまち
- 学校だけでなく、家庭や地域で子どもの育ちを支えるまち

KGI	学校生活の充実	「学校が楽しいと感じる」児童・生徒の割合の増加
	学力の向上	学力調査におけるIRTバンド*(1・2及び4・5)合計割合の向上
	主体的に学ぶ児童・生徒の増加	課題の解決に向け自分から取り組んでいる児童・生徒の割合の増加

(1) 学力の向上

教員による授業研究の促進と実践

「聞いてわかる」「話して伝える」活動を基盤とした、実践的な英語力の育成

ICT*の効果的活用

学校の授業以外での学習習慣の定着

(2) 家庭・地域と学校が強固に連携した学ぶ環境づくり

家庭での教育環境の向上に対する意識啓発

地域人材の積極活用による取組みの充実

(3) 小中一貫教育の推進

小・中学校の系統性・連続性を鑑みた連携・一貫の強化

本市初の義務教育学校の整備に向けた準備・対応

(4) 児童・生徒の心身の健康づくり

地域人材を活用した地域クラブ活動の展開

すべての児童・生徒が学校や社会とつながりを持つことができる機会の創出

(5) 安全で適正な教育環境の整備

児童・生徒数の推移と財政規模、今後の教育のあり方を見据えた適正規模・適正配置の検討

安全・安心で良好な学習環境の確保

(6) 子どもたちが大東に誇りを持ち、住み続けたいと思える郷土愛の醸成

大東のまちを知ることで、地域のために何かしたいと思う気持ちの育成

子どもたちがまちづくりに関わる機会の創出

5 出産や子育ての安心と魅力の創出

大東の特徴と課題

<強み>

待機児童ゼロを堅持している

他市に比べ、結婚年齢が低く、第3子以上の出産割合が高い

<課題>

子育て世代の流出が多い

子育て世帯が相談できる人や自分時間が持てずに負担感が増大している

めざす「定住したい」まちの姿

- 子育てしながら、自己実現を図ることのできるまち
- 子育て世帯が相談できる場所や人が身近にあるまち

KGI	子育て環境に満足している市民の増加 若い世代の転出の抑制	子育て環境が整ったまちだと感じる市民の割合の増加 若年者層+子ども層の転出率の減少
-----	---------------------------------	--

(1) 子育て世帯の孤立化の防止

ネウボランドだいとう*の相談機能の強化

子どもの居場所づくり

(2) 子育てと自己実現の両立

保護者の自分時間の創出支援

子育てサービスの利便性の向上

(3) 子育てニーズの多様化に応じた子育て環境の充実

社会情勢や保護者ニーズに応じた保育環境の整備

子育て施設の充実

(4) 「子育てするなら、大都市よりも大東市。」を市民が実感できる情報発信

子育てサービスを分かりやすく伝える情報の発信と周知

6 チャレンジする人と産業の後押し

大東の特徴と課題

<強み>

製造業が集積している

20年以上存続している事業所が多く定着率が高い

創業件数が増加傾向にある

交通利便性が高く、取引ネットワークとの隣接性に優れている

隣接する大阪市に比べて事業用地が割安である

<課題>

施設や設備の老朽化が進んでいる

事業所数が減少している

事業を継続するための人材不足に不安を抱える企業が増加している

女性の就業率が全国よりも低い

めざす「定住したい」まちの姿

- 市内企業が持続的な成長をし続けられるまち
- 新しい企業の参入や起業が増え、市内産業が元気なまち
- 若い人や女性をはじめ誰もが自分らしく活躍できるまち

KGI	市内企業の経営効率の改善	付加価値額*の向上
	市内経済の活性化	市内事業所数の増加
	就業しやすい環境の整備	市民（生産年齢人口）就業率の増加

(1) 市内企業の持続的な発展と留置支援の強化

市内企業の生産性とブランド力の向上支援

市内企業の人材確保・定着支援

産業施策の認知度向上と活用促進

新商品・新サービス開発支援

公・民・大学等との連携による地域課題解決に向けた取組の推進

(2) チャレンジしやすい環境づくり

創業者支援

就労支援

(3) 市外からの企業誘致

流入しやすい環境整備

市内企業と市外企業との連携の推進

市外企業に向けた産業施策や操業環境の魅力の発信強化

(4) 市内企業の魅力を市民が知り、誇りに感じる情報発信

市内企業の魅力やポテンシャルを積極的な発信と周知

大東の特徴と課題

<強み>

国史跡指定の飯盛城跡をはじめとして、市内に多数の歴史的資源がある
市外からのアクセスが良く、市内もコンパクトであるため、移動・周遊しやすい
地域コミュニティが主体となる活動が存続している（自治会、だんじりまつりなど）

<課題>

市外からの認知度だけでなく、市民にも大東市の取組や歴史的資源の認知度が低い
地域活動の担い手が減少している

めざす「定住したい」まちの姿

- 「このまちが好き」という市民が多いまち
- 市民も市外の人も、「大東」や「大東の魅力」を知っているまち
- 大東に訪れる人が増え、消費が生まれるまち
- 地域コミュニティを支える人がいるまち

KGI	大東市民の愛着の醸成	大東に好意を感じる市民の割合の増加
	大東に対する市外からのイメージの向上	大東に好意を感じる市外の人の割合の増加
	来訪者の増加	大東市を訪れる人の増加

(1) 歴史・文化と観光・産業を掛け合わせた人の呼び込みとシビックプライド*の醸成

歴史的資源や魅力資源を活かした来訪と市内周遊の促進

地域産業と連携した観光プロモーション*の強化

歴史的資源の保全と継承

(2) まちづくりへの参画によるシビックプライド*の醸成

地域活動への参加促進（自治会等）

市政への市民の参加の推進

公・民・大学等との連携による地域課題解決に向けた取組の推進（再掲）

大東のまちを知ることで、地域のために何かしたいと思う気持ちの育成（再掲）

子どもたちがまちづくりに関わる機会の創出（再掲）

(3) シティプロモーション*と発信力の強化

大東の文化や歴史資源等の魅力を発信と周知

大東の安全対策や防災体制など、まちの安全性の発信と周知（再掲）

大東の利便性や暮らしやすさなど、まちの魅力の発信と周知（再掲）

子育てサービスを分かりやすく伝える情報の発信と周知（再掲）

市内企業の魅力やポテンシャルを積極的な発信と周知（再掲）

大東の魅力や情報のメディア露出の拡大

8 行政サービス改革

大東の特徴と課題

<強み>

全国から多くのふるさと納税をいただいている
行政手続きのデジタル化が進められている
公民連携に先駆的に取り組んでいる

<課題>

経常収支比率の高止まりにより、柔軟な財政運営が難しい状況にある
人口減少に伴い、税収が減少する可能性がある
人口増加期の公共施設総量を維持している
高齢化社会の進展に伴い、デジタルデバイド対策が求められている
職員の人材確保が難しい

めざす「定住したい」まちの姿

- 財源が確保されて財政が安定しているまち
- きめ細やかな市民サービスが受けられるまち
- 市の施策を多くの人が知り、行政が信頼されているまち

KGI	財政の安定化・健全化	将来負担比率*の「なし」の維持
	大東での暮らしの満足度の増加	大東市に満足している市民の割合の増加
	行政情報の発信力の向上	行政情報が得やすいと感じる市民の割合の増加

(Ⅰ) 財源確保と歳出削減、資源の最適化

交付金等の積極的な獲得と事業の不断の見直し

公共施設等の廃止・再編・活用による総量の見直し

未利用普通財産*の早期方向性の決定（再掲）

デジタル化・DX*の推進による業務効率化の推進

基金*の堅実で効果的な運用

(2) 質の高い行政サービスの提供

民間の力を引き出す提案型公民連携*の推進

職員の人材確保・定着促進とその成長段階や役割に応じた組織全体の力を高める人材育成

市民に親しみやすく便利な庁舎づくり

デジタル化・DX*の推進による市民の利便性向上ときめ細やかな行政サービスの推進

(3) 職員の情報発信力の強化

各課の取組の積極的な情報の発信と周知

(6) 検証及び見直しについて

毎年度、取組の進捗状況や KGI の達成状況を内部で検証するとともに、検証結果を外部有識者や市議会議員、市民等を含む大東市総合計画・総合戦略審議会に報告し、意見聴取を行う。

また、総合戦略にかかる取組のうち、重点施策に紐づく取組については、毎年度対象となる事業を選定するとともに、重点的に進捗管理を行っていく。

あわせて、市民を対象とした意識調査を定期的に実施し、市政全般に対する市民意識の傾向を把握する。

これらの検証結果を踏まえ、各取組や予算への反映を行うとともに、必要に応じて総合戦略の見直しを図る。

用語集

	用語	説明
か	街頭犯罪7手口	ひったくり、路上強盗、オートバイ盗、車上ねらい、部品ねらい、自動車盗及び自転車盗をさす
き	基金	自治体が特定の目的(災害対策、施設整備など)のために、条例に基づいて積み立てたり運用したりする資金
し	シビックプライド	市や地域に対する住民の誇りや愛着に加え、もっとよいまちにしていこうという能動的な意識
し	将来負担比率	自治体の借入金(地方債)など現在抱えている負債の大きさを、その自治体の財政規模に対する割合で表したもの。数値が低いほど健全
せ	生活関連経路	多くの高齢者や障害者などが日常生活や社会生活において利用する生活関連施設(駅や病院、郵便局、文化施設、官公庁など)を相互に結び、安全・円滑に移動できるように、特に重点的にバリアフリー化を図る必要がある経路として、法律に基づいて指定されている道路
て	提案型公民連携	民間事業者からの提案による市民満足度の向上や事業の効率化など、地域課題解決を図る取組
ね	ネウボランドだいとう	大東市こども家庭センターのこと。妊娠期から出産、18歳までの切れ目のない子育て家庭を支援するための拠点
ふ	付加価値額	企業の生産活動によって新たに生み出された価値のこと
ふ	普通財産	自治体が保有する土地・建物などの財産のうち、行政目的として直接利用されるものではなく、私人と同様の立場でこれを保持する財産
ふ	プロモーション	認知度を高め、人々の関心を喚起するための活動

	用語	説明
D	DX	Digital Transformation(デジタル・トランスフォーメーション)の略称で、デジタル(Digital)と変革を意味するトランストラスフォーメーション(Transformation)により作られた造語。デジタル技術の活用によって、業務や組織の在り方を変革し、より良い方向に導くという概念
I	ICT	通信技術を使って、人とインターネット、人と人がつながる技術
I	IRTバンド	難易度の異なる問題でも同じ尺度で比較できる理論を用いて、全国学力・学習状況調査の結果を数値で示したもの。標準バンドを3とし、最大バンドは5の5段階で示す
K	KGI	Key Goal Indicator(重要目標達成指標)の略称で、最終的な目標達成度を測る指標